

## 「全国商工会議所観光振興大会2017 in 前橋」

～1,800人が集い、観光資源の発掘・磨き上げによる地方創生について議論～

去る11月9日～10日に「全国商工会議所観光振興大会2017 in 前橋」が前橋市の「前橋テルサ」並びに「ベイシア文化ホール」他で開催され、全国の商工会議所や観光関係者ら約1,800人が参加、当所からも観光・サービス部会の中谷部会長、梅村・田邊の両副部会長ら12人が参加した。

14回目を迎えた今大会は、「見つけよう観光、磨こう観光 ～地域から新しい風を吹かせ～」を全体テーマに、観光振興の在り方を考えた。

初日の9日は、5つの分科会が開催され、群馬県が誇るものづくり産業や文化といった観光資源の再発掘や、IoTを活用した新たな観光誘客策を探った。

10日の全体会議では、主催者を代表して日本商工会議所の三村明夫会頭による開会挨拶の後、日本商工会議所の須田観光委員会共同委員長より「商工会議所における観光振興の取り組みについて」と題した講演が行われた。続いて、「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」表彰式では、長野県 上田商工会議所の「NHK大河ドラマ『真田丸』放送を最大限に活用した地域振興事業」が大賞を受賞した。また、先進事例紹介として鳥羽商工会議所の清水専務理事より、鳥羽市における民間が主導するインバウンドの事業展開や、鳥羽市在住の外国人を専門職員として雇用し、外国人目線での情報発信や商品造成等、誘客に向けた様々な取り組みが紹介された。

その後、東洋文化研究家で特定非営利活動法人籠庵（ちいおり）トラスト理事長のアレックス・カー氏より、外国人観光客が求める日本の観光について事例を交えた基調講演。続くパネルディスカッションでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会 近藤会長、群馬県立歴史博物館 右島館長、交通新聞社「ジパング倶楽部」 矢口編集長をパネリストに迎え、「地域資源を核とした広域観光を考える」と題し、連携による魅力的・効果的な観光振興の取り組みについて活発な意見交換が行われた。

最後に大会の議論を踏まえ、地方創生を実現するために、地域の事業所や市民がWin-Winの関係を作り上げることで継続的に発展する地域を目指す「前橋アピール」が採択された。

今回は、平成30年11月5日から7日まで、「観光地から感動地へ～地方都市の観光創造に向けて～」をテーマに、会津若松市で開催される。



全体会議で開会挨拶をする  
日本商工会議所の三村 明夫 会頭



参加者で賑わう会場内の群馬県  
特産品販売コーナー



ベイシア文化ホール前にて